



サークル・絆の皆さん。前列左から緒方睦子さん、原口晶子さん、森永さん、中村さん、中村裕子さん。後列左から宮崎いく子さん、木村葉子さん、永田正子さん、田崎さん、福永道子さん

さんから温かく受け入れていただき、すぐに打ち解けました。子どもたちの地域の見守りもありがたいです」と話します。

森川さんと田崎さんは今年5月に女性だけで結成された「乙女会」のメンバーです。「2カ月に1度公民館に集まり先輩たちから、土地の習わしや伝統などを教えてもらっています。といっても、飲み会が主な目的ですけどね」と2人はお茶目に笑います。

## 「前を向いて」 サークル・絆の結末

もう一つの女性グループが、熊本地震で復旧のめどが付かなかった頃に結成された「サークル・絆」です。被災して心が折れた時、「前を向いて歩かないとみんな病気になるってしまう」と、23年前に同区に移住した中村智子さんの声掛けで、集落の女性たちが手を取り合いました。

「家や車の鍵を入れる巾着作りから始めました。洋服の仕立てを仕事とする森永映子さんが指導してくれました」と中村さんが振り返ります。「針を通してながら、日常のありがたさをかみしめたものです」と森永さんも言葉添えます。

小物づくりや健康運動をするなど、無心に何かに夢中になることで、ポジティブな精神力を育んでいったそうです。「支援のお返しに



サークル・絆で手作りされたポーチや小物いろいろ



休日の余暇を使って家庭菜園を楽しむ坂田さん。いい笑顔です

ポーチを手作りして贈ったことから、企業の復興イベントで販売してみようということになり、それが評判が良くて。全員、がぜんやる気が出ましたよ」と話してくれたのは、元気印の田崎誠子さんです。

被災後、益城出身の現役競輪選手でシンガーソングライターの仲山圭さんから「東無田音頭」という応援歌が贈られ、中村さんが振り付けをしました。公民館の畳の上に輪を作り、曲に合わせて踊るサークル・絆の皆さん。その笑顔は晴れ晴れとしていました。

## 15歳で古里を離れて

自宅横の畑で家庭菜園を楽しんでいる坂田英夫さんに出会いました。長ナス、トマト、カボチャ、オクラ、ニンジンなど無農薬の季節の野菜が育てられています。「野菜づくりが面白くなって、どんどん種類が増えました」と楽しそうに収穫に汗を流します。

そんな坂田さんが東無田を離れたのは15歳の時。益城中を卒業後、

少年自衛隊を志し入隊。「古里を遠く離れるほどに、思いは募っていきました」と坂田さん。14年前、古里に自宅を新築し家族の拠点をつくると、その後の県外任務は単身赴任で務めました。坂田さんは「子どもたちに、古里と呼べる場所をつくってあげたかったんです」と振り返ります。

定年退官後、熊本で再就職をした坂田さんは「東無田・下原地区まちづくり協議会」会長も務め、地域に尽力しています。伺ったその日、次女の渡邊晴香さんと8カ月になる孫の侑心ちゃんが帰省していました。庭先でコロコロと笑う初孫を抱っこする坂田さんの目尻は下がりっぱなしでした。



上/坂田さんが育てた無農薬の夏野菜  
右/坂田さんの次女の晴香さんと初孫の侑心ちゃん。笑顔がたまりません

